



二つ森山1223m7月14日(月)

中村、伴野、柴橋、水谷、市橋、織田

▲天気崩れのペースが遅くなり、晴天の朝を迎えた。7:15 名城公園発。平日の下道(国道 41、県道 70)使用のため、渋滞に遭遇し、切越峠到着が 30 分程遅れた。登山口の標高が 885mあり、嫌な暑さはなかった。



▲ 10:00 登山開始。小休止を挟み、坂を一気に登ると尾根に出た。爽やかな風が吹き抜け、汗が引いた。尾根の両側は、概ねヒノキの植林だ。点在する大岩(濃飛流紋岩、溶結凝灰岩)の間を通り抜けると 11:00 第一展望台に出た。ここでは、白川町方面の展望が得られた。また、伴野さんお手製のコーヒーにてホッと一息。

▲1160mピークを緩やかに下り、大きな鞍部を経てミズナラ、コウヤマキの自然林に変わると、11:40 コウモリ岩分岐に到着。ここから丘のようなピークを越え、大岩のすぐ先にあるクマザサ帯を通り抜けると、12:10 あずまやのある二つ森山頂上(西森)に到着した。



▲昼食休憩をとり、山頂からの眺望を堪能した後、12:45 下山を開始。下山中は、天気が崩れ

なかった安心感からか、会話が社会情勢、ノーベル賞、宮様…etc.と弾み、和やかな雰囲気です。14:30 登山口に到着した。心配された降雨は、名古屋に戻るまでは大丈夫であった。

——記録：中村、写真：柴橋、

日本の山岳遭難

1 最大の遭難事故 富士山大量遭難事故とは、1972年3月19日夜半から3月20日にかけて低気圧の襲来によって発生した悪天候に見舞われ、富士山御殿場ルートを下山中の登山者が低体温症や雪崩により18人死亡、6人が行方不明となった事故である。

2 一番死者の多い山 1931年(昭和6年)から統計が開始された谷川岳遭難事故記録によると、2012年(平成24年)までに805名の死者が出ている。世界各国の8000m峰14座の死者を合計しても637名であり、この飛び抜けた数は日本のみならず「世界の山のワースト記録」としてギネス世界記録に記載されている。

3 日本一、遭難者が多い山 標高599メートルの高尾山(東京都)だ。昨年の遭難は100件を超える。2024/11/06

4 愛知大学山岳部 薬師岳遭難事故
1963年(昭和38年)1月に薬師岳で発生した遭難事故。登山中の愛知大学山岳部員13名が死亡した。1963年3月23日、冬山訓練を行っていた名古屋工業大学山岳部パーティーが愛知大学山岳部員2人の遺体を発見した。

NETでみる山岳遭難事故事例

▲登山には、様々なスタイルがあるが安全が最優先事項である。春夏秋冬と四季に応じた山行の面白さ、そして危険が隠れている。知識と技術、体力と経験、運も左右する。いかに厳しい



山行経験をもっているか? 厳しいルートも、今やNetでリアルな映像が見られ、遭難事故の生々しい映像が見られる。経験を補う貴重な資料を活用したい。—織田